

◆ 千代田都税事務所長賞 ◆

「税金が救う地域文化」

神田女学園中学校 3年 山内 響

私の住む町、茅ヶ崎市には 180 年以上続く「浜降祭」というお祭りがある。お祭りの日は早朝から御神輿の担ぎ手のために各自治会で食事や飲み物を用意するのが伝統で、長い間、顔なじみの地元の八百屋さんやお菓子屋さんなどその地域にある小さな商店から調達していた。しかし、今年の夏休みに祖母から「今年からは大手スーパーを利用することに決まったらしい。」と聞いたのだ。それは安くて、早くて、一度に多くの商品が揃うから便利なのだろうと推測される。私は、寂しいなと感じたのと同時に、それでよかったのかな？と疑問に思った。そして、自治会の買い物であっても、安さや便利さだけで判断してしまうと結果として法人税が都心に流れ、東京一極集中という日本の大きな課題にも関係してくることに気付いた。それが加速すれば、地域の小さな商店は減少し、財源が少なくなった地方では伝統などが維持できなくなったり、日本各地の特色が失われることにもつながってしまう。せっかく旅行に行っても、同じような大手商業施設が立ち並ぶ景色はつまらないと私は思うのだ。

お祭りの事例は小さなことかもしれないが、地域のお店を利用することによって地域内でお金が循環し地域が活性化する。税は素晴らしい仕組みであり、地元の企業が法人税を払うことでいろいろな形で還元されていることを多くの人を知ることにより街づくりができるのではないかなと思う。

今年の夏、お祭りから始まった小さな疑問から、地方法人税や地方交付金のことを少しだけ理解することができた。地方法人税の使い道は、国から各自治体に配分される地方交付金に使われ、地方自治体の適切な行政サービス維持するために重要な役割を果たしている。この制度は、地方の財源の不均衡を調整してくれているという。東京に限らず、どこに住んでいても快適に、そして日本全体が栄えることができる。近年、多くの外国人が日本を訪れている。外国の人達は私たち日本人よりずっと深く日本全国の伝統や特色に魅力を感じていると思わされることがある。世界的にみても日本は魅力的な国だと言えるのだ。そしてそれを維持していくのは私たちなのだ。中学生としてできることは、地元の商店で買い物をして、納めた税金の使い道などを学び、税金は社会の基盤を支える重要なものと意識できる大人になることだ。

税は、日本における大きな課題とも密接に関わっている。この気づきを大切にして広い視野で考えていきたいと思う。